



「私を生み、育ててくれた大田区」



理事 加藤 保

保育園の園長になってから、31年経とうとしております。東京のはずれの大田区に生まれてから一度も他所の地で暮らしていないという世間知らずの園長ではありますが、なんとかこれまで園長としてやってこられたのは大田区であったからではないかと思っております。

23区内でも大田区は広い面積があるということで、海あり川あり高台もあるが故に山の手あり下町ありと多様な特徴のある町や人々が暮らしているところでもあります。空港があるということで外国人も古くからたくさんおり多国籍の面も多々見られますが、地元意識が強く一度区外に出た人たちも、また、大田区にもどってくるケースが多いと思われます。そのおかげでしょうか、現在でも区の人口は減少せずに若干の増加傾向を推移しております。

私が、保育園に勤務した昭和60年の大田区の私立認可保育園は、約15園ほどしかなく現在の私立認可保育園の128園という数を想像することすらありませんでした。園長になる以前の保育業界は、近年の目まぐるしく変わる園の運営方法や制度の様なことはなく、毎年子どもたちにじっくりと寄り添える時間が持てるそんな状態でした。20年くらい以前より毎年のように制度や保育のしくみが変わり、それらに追われる日々が続くように感じられてしまうのは私だけでしょうか。

前段で、大田区の地域性を述べさせていただきましたが、大田区は、以前地域で子どもたちを育てるといふ土地柄でありました。少しずつではありますがそういうものが薄れてきており、児童虐待の問題では、城南地区でも多い区という不名誉なところとなっております。下町と山の手が混在しているところでもあるため、経済格差があったり下町気質の言葉使いのように多少乱暴な言動が見られることが原因の一つとなっているのでしょうか。大田区私立保育園連合会の園長たちは、頭を悩ませており、大田区の住人が大田区を愛するように、すべての子どもも愛され育まれるように、区の行政と協力し改善されるように努力しているところでもあります。

大田区から一度も出たことのない私が、大田区の私立認可保育園の役に立てられるように他の県、東京都の市区町村の現状を把握したいと思い、保育団体の活動に参加するようになり、非常に勉強となったことはいまでもありません。国や都の行政の方向性などの情報収集や、経験豊富な先輩の園長先生のお話、保育団体主催の研修会は、今もそうですが、本当に有意義なものとなっております。今期より東京都民間保育園協会の理事を、拝命させていただいた者として、皆様のお役に立てるように努力するとともに、情報を発信し役立てていただけるようにしていかなければならないと思っております。